

平成29年（第6期）事業報告書

（平成29年1月1日～12月31日）

公益社団法人 国際IC日本協会

I 総括

【はじめに】

（公益社団法人6年目、次の世代に向け、協会運営方法の改革スタートの年・・・新しい組織体制）

公益社団法人国際IC日本協会（旧MRA日本協会）は、昭和50年(1975)任意団体として設立、昭和59年(1984)に文科省所管の社団法人、平成24年(2012)内閣府所管の公益社団法人となっている。

平成29年度は、日本経済の急激な変化と会員高齢化を受けて、会員数減少が続くなか、理事会を中心に、次の世代へ事業継続するために改革をスタートさせた。具体的には、管理部門の業務委託、各国のIC協会及びCRTや同じ志を持って活動を続ける他団体とのネットワーク強化を進めた。

一方で、昨年に続き、役員の実業責任を明確化、理事会運営の効率化、事務局体制の整備等を行った。

□事業運営方法を個人依存型から外部資源の活用へ（役員と事務局チームが連携して取り組む）

・学校訪問プログラムにおける『推進プロジェクト』の活動

学校訪問プログラムについて、本年は中断、平成30年にむけて担当理事を任命して「推進プロジェクト」を設置。積極的な議論を重ねて、平成30年度のプログラムが着実に出来上がってきた。静岡県、小田原市、つくば市、福岡県など、これまでのネットワークをさらに活用する方向で準備が進められている。

・第39回国際フォーラム 「実行委員会」方式が進化してきた

「第39回国際フォーラム」の企画運営に当たって、担当理事及び主要メンバーが「実行委員会」を構成しチームプレイで臨んだ。毎回熱心な審議が行われ「チームの取組み」が定着、さらに若いメンバー（APYC等）のファシリテーターも育ており進化の兆しが見えてきた。

・「日中韓フォーラム」における韓国MRAとの連携強化と参加大学生によるネットワーク

当プログラムは、日韓のIC（MRA）協会が連帯して、若き大学生を「世界的な視野を持つ次代のリーダー」として育成するものである。「環境」をテーマにした事前の論文提出からスタートし、フォーラム期間中の討論会・交流会、帰国後の感想文提出と一連の流れは、「グローバル教育プログラム」と確立してきた。成果は、論文集としてまとめられ、次年度に引き継がれる。

□役員（理事・監事）の役割分担制度がさらに定着

・役員「役割分担制度」が定着してきた

昨年からの継続課題として、公益事業の運営を「個人依存型」から脱皮して、「役員「役割分担型」へ移行する流れが定着してきた。今後は、役員（理事・監事）が持つ経験力・専門能力・ネットワーク力を最大限に活かしたネットワークの構築を目指す。

□新事務局体制（女性中心）の確立に向けて全役員がサポートする

・理事会運営の効率化と経理体制の見える化

新事務局長の努力により、効率的でなかった理事会運営が大きく改善されてきた。さらに、経理体制も専務理事が中心となって進められた。次年度は新業務委託先による改革が期待される。

□外部ネットワークと広報活動

・外部委託先による広報活動の効率化

個人依存型のため、多くの時間を要していた広報活動（ICニュース、ホームページ等）が効率化されてきた。次の課題は、役員並びに会員の協力を得てさらに改善（ライト感覚による即時性）であり、このことが会員数増加へ繋がることを期待される。

II 事業活動の概要

【公益事業1】 国際会議の開催による国の健全な発展及び世界平和に資するための事業

<事業名>第39回 IC 国際フォーラム (The 39th Initiatives of Change International Forum)

<実施期間> 2017年11月25日(土) ~26日(日)

<開催場所> 国際文化会館 (東京都港区)

<事業の概要>

□参加者:78名

会議の主テーマを「はじめの一步」、副テーマを「わたしが変わると世界が変わる」と定め、国内外から招聘した多様な背景を持ち様々な経験を積んだ講演者から広く IC(Initiatives of Change)の考え方や世界情勢について学ぶ機会を持った。グループミーティングや講演等を通して、それぞれの違いをお互いに受け入れ、相互に尊重する感性を養った。更に人生で大切な価値や方向性を学ぶため内省する時間を持ち、各人が社会に貢献する「はじめの一步」を踏み出す契機を探った。参加者は78名(内訳は海外10名、一般58名、学生6名、留学生4名)、高校生から90才を超える老若男女が参加した。

<事業の成果>

様々な背景を持つ国内外の参加者と話し合い、自分自身を見つめ、どのような家庭を築き、どのように社会に貢献するか、持続可能な平和な世界を目指すための役割は何かを参加者が考えた。各人が社会に貢献する「はじめの一步」を踏み出す契機を探ることができた。

【公益事業2】 青少年の健全育成事業

<事業名>2017年 IC ユースキャンプ Initiatives Of Change: The training for the leadership for the Youth

<実施期間> 2017年9月10日(日) ~ 13日(水)

<開催場所> 富士カーム (富士吉田市)

<事業の概要>

□参加者:18名

これまで IC のプログラムに参加したことのある日本、東アジアの青年たち18名が参加、個々の在り方から、効果的に新しい世界へ貢献しうる生き方ができるのかを探る研修となった。

研修の目的:

- 自分および相手の感情を尊重し、気持ちの背景にあるものを理解する学び。
- 感情をうけとめ認識し、目的を続けるために精励していく生き方。
- 静かに熟慮する内省から、生きる源となる新たなる心の道筋を見出す研修。
- 良い決断をするには、自分の生きる姿勢の動機がどこに根ざしているのかを考える。
- 個々の経験が、国境を越えて世界の問題に関わるのでその関連性を理解する学び。

<事業の成果>

日本と台湾のボランティア ファシリテーターによる講演、グループディスカッション、個々の洞察、リトミック (音楽に合わせて体の動き) など、さまざまな種類の研修が実施された。参加者全員からこれまで気がつかなかった新しい視点により自分自身の理解が深められたこと、また鍵となった自分の中の感情をきちんと認識をし、受け止め、どう対処できるか学べたことなどが報告された。

<事業名>学校訪問プログラム

平成29年度は1年間中断することとし、平成30年度実施に向け4名の理事を中心に実行委員会で活動。選考委員会を設け海外からの招聘メンバー選抜等、十分な準備に取り組んだ。

【公益事業3】 個人と家庭の健全な発展に資するための事業

<事業名>IC ビジョン会議【合宿討議】

<実施期間> 2017年6月16日(金)・17日(土)・18日(日)

<開催場所> 富士カーム (富士吉田市)

<事業の概要>

□参加者:17名

□討議テーマ:「普通の人の1%のチェンジ」・・・国際IC日本協会の存在価値を共に考える

<研修会の経過と概要>

I. 準備委員会の活動:「ビジョン検討委員会」の設置とスカイプミーティング

1. 2016年09月理事会決議:「ビジョン検討委員会」設置の方向が決まり、
2. 2016年10月理事会:10名の委員が任命された。
3. 2016年11月30日:スカイプミーティングのスタート
4. 2017年2月18~19日(準備研修):初日、お台場にてワークショップ、2日目、ICオフィス
成果物:『はじめの一步』を踏み出す場と『それなりの』変化を起こすキッカケ

II. ビジョン検討合宿討議の概要

1. 初日:ワークの課題として、参加者が詩(うた)と短句を創る
例:「雪残る富士を仰ぎて語り合う明日のIC如何にあるべし」「文字にして語り合うことの新発見」
「ワークして脳内に新しい風吹きそよぐ」「富士の嶺に迎えられての研修会」
2. (ICのコンセプト):①ICの精神に基づくリーダーを養成する”(ヤングホークスチーム)、
②はじめの一步(森林チーム)、自身の生き方を発見するヒントのお手伝い(フランスチーム)
➤その後投票形式で合意されたのは「自身の生き方を発見するヒントのお手伝い」
3. 合宿で得られたもの(副産物)
一体感(合意・融合の感覚)の醸成:参加者の一体感、換言すれば、「人の輪」の形成に繋がり、「人の環」が生まれ、「人の和」の醸成に結実した。
4. 合意形成のプロセス(メインファシリテーター佐々木淳氏の努力)
新たな始まり、確かな一歩であり、熱く取組んだチームワーク(人の和)の結晶の賜である。
「人の和」は、この2泊3日の合宿研修により絶妙な変化と進化を遂げた。

III. 合宿後の活動と今後の方向性

6月29日(金)に、ICオフィスで「反省会」を開催。「得られたもの」「得られなかったもの」「改善点」に分けて表現。今回の合宿研修は、「三段跳び」での、最初の「ホップ」に当たるもの、次に続く「ステップ」に繋がり、次の「ジャンプ」に繋がってこそ評価できる。

<事業名>各種交流会(IC交流会)

<事業の概要>

会員間の相互理解と信頼を深めるために、「ICと私」の基本テーマの下に、夫々の活動紹介や人生を語る機会とした。ICの精神やその実践による体験等を分かち合うことにより、相互に学び合うと共に新たなネットワークを築く場ともなっている。(第3日曜日が定例会として定着)

(開催内容) 次のテーマ及び日程で計6回開催された。

①1月度(1月22日 17名)

「日本社会に定住の道を求め、帰化への選択と決断のライフストーリー」

1995年初来日、2013年日本に帰化、スリランカ出身 ゴダクンブラ カピラバンダラ氏(当協会理事 スリランカ料理店オーナーシェフ)

②2月度(2月19日 16名)

外部講師「ブラジルの日系社会と日本語」中沢 英利子 氏

(横浜市立大学大学院 都市社会文化研究学科博士前期課程在学中)

- ③ 4月度 (4月16日 18名)
外部講師「難民問題とどう向き合うか」穂積 武寛氏
(特定非営利活動法人 AAR Japan 難民を助ける会 プログラム・マネージャー)
- ④ 5月度 (5月21日 27名)
「2014年スコットランドの独立を問う住民投票や、英国のEU離脱に対する国民の反応―
曾祖父母からICに深く係ってきた歴史を持つ家族の一員として―」
マーシャル クレイグ氏(英国政府職員)
- ⑤ 10月度 (10月15日 16名)
各種プログラム参加報告会
・「第14回東北アジア青年フォーラム」成豪哲理事+参加学生2名 創価大学、上智大学
・「コー世界大会 CATSに参加して」加藤亮子氏
・初開催「2017ユースキャンプ」兼松恵理事+参加者村岡真梨氏
- ⑥ 12月度 (12月17日 12名)
外部講師「人間性・道徳性を育てる研究・教育をどのように広めているか、心豊かで平和な世
界の実現をめざす取組」
公益財団法人 モラロジー研究所参与 松田 貞男氏

<事業名>九州サークル勉強会

<実施期間> 2017年3月4日(土)・3月5日(日)

<開催場所> 福岡 九電ビル共創館カンファレンスD

<事業の概要>

□参加者: 3/4 32名 3/5 24名

シリアの内戦で人々は難民となって移動している。私たちは否応なく激動の世界を生きていることを知る。このような時代、無力な一人一人が、小さな勉強会で問題を直視し、今を生きることを意味を自分のものにする努力を続ける。

「北アイルランド紛争」についても学んだ。対立を続ける人たちがいかんにしてテロの連鎖にくさびを打つことができたか、不可能と思える状況打開に向き合った心理学者、平和運動家カール・ロジャーズらの行動と心を知ることが勇気の源になることを『鋼鉄のシャッター』の勉強で体感した。

「映像から学ぶ平和への道」プログラム

- ・DVD「おやすみなさいを言いたくて」上映
- ・「文明の衝突」ハンチントン著
- ・九州サークル-歴史を学ぶ歩み
- ・「ガザの八百屋は今日も空っぽ」
- ・「自爆テロ “おやすみなさいを言いたくて”」
- ・「戦争のリアル」
- ・DVD「パラダイス・ナウ」解説と上映

【公益事業4】 国際相互理解と友好を促進するための共同事業

<事業名> 「第3回韓日青少年討論会」「第14回MRA/IC 東北アジア青年フォーラム」

<実施期間> 2017年8月21日~8月27日 (6泊7日)

<開催場所> 韓国・ソウル特別市内AWコンベンションセンター
・天安市国立中央青少年修練院

<事業の概要と成果>

□参加者: 89名

日韓大学生討論会

メインテーマ: 「共にする青年文化を創るための日韓青年の役割」

サブテーマ：1) 「ひとり」から「共」にする青少年文化
サブテーマ 2) 社会の構成員としての青年の結婚と出産

第14回東北アジア（日中韓）青年フォーラム

メインテーマ：環境と保護

サブテーマ：1) 未来世代のための東北アジア環境協力（韓国発表）
2) 環境開発と東北アジアの持続可能な発展（中国発表）
3) 気候の変化と人類の未来（日本発表）

日本団は合計22名。

大学生（7大学13名、その内11名が初参加、1名が2回目、1名が3回目）

（慶應義塾大学、北海商科大学、創価大学、東京女子大学、日本体育大学、沖縄大学、上智大学）

この他、韓国学大学院、高麗大学に留学中の学生等現地参加5名、大人参加者2名、

IC引率者、成豪哲理事、足立憲昭監事の合計22名が参加。

・韓国参加者 学生30名 スタッフ10名／中国参加者 幹部2名 学生25名

<事業名> スイス・コー国際会議

<実施期間> 7月27日～8月4日

<開催場所> スイス・コーIC国際会議場

<事業の概要>

2017 CATS-Children as Actors for Transforming Society- 変革の担い手としての子供達とともに
よりよい社会を作ることを考えるプログラム。

国際IC日本協会からの参加者：5名

（加藤光久理事、加藤亮子会員、天澤典子事務局員、関淳子会員、J. ジャトゥラノン会員）

<事業名> スイス・コーIC世界総会

<実施期間> 7月21日～25日

<開催場所> スイス・コーIC国際会議場

<事業の概要>

I, Global Assembly（7月21日～23日）

参加出席者：約60名（IC評議員9人、IC会員33か国、準IC会員国9か国、その他IofC International
スタッフ）

議題内容；

A. 国際評議委員会の報告：

*昨年（2016年）総会議事録の承認

*2016年度財務報告および公認会計士事務所監査報告の承認。

*2018年度予算承認。

B. IofC International(国際IC本部)の再検討：

2016年総会にて国際IC本部のガバナンス、運営、資金調達および事業プログラムの検討のため、
会員の中からボランティアによる運営委員会を8人でたちあげ、一年間の調査検討の中間報告。

C. ロゴの検討グループの報告

1. 現状ロゴの不備の指摘

2. 変更ロゴ 2案が提示され、Logo 2 が賛成22か国で決定。

<参加者 田中章博専務理事>

II. Global Communication Group Meeting (7月24日～25日)

参加出席者；25名

*議題内容：

1. Logo改訂について、世界会議の決定案の報告。

今後の進め方はさらにロンドンのPRコンサルタント会社と細かく詰めて最終案を作り、2018.1.1より採用を目標とする。

*現在のロゴがついている封筒、書類などは在庫がなくなるまで利用することは問題なし。

*ロゴの法的権利保護は確立する。

*新しいロゴを付けた封筒、レター用紙、T-シャツ、Bagなどのサンプルを作成。

2. 各国ホームページの改良について>

<参加者 田中章博専務理事>

【公益事業5】 機関誌発刊並びにホームページによる啓発事業

(事業の概要)

個人、グループとして、日本を始め、世界各地で行われている様々なイニチアティブを紹介すること、会員相互の情報交流や啓発活動を支援するために、定期的に機関誌「ICニュース」を発行する。ホームページを活用して、会員(個人・法人)の皆様に当協会の活動状況(議事録、イベント報告等)を伝達し、新規会員の募集やイベント参加募集等を効果的・効率的に行う。

(活動状況)

・ICニュース第20号(4月1日発行)、第21号(11月1日発行)

III 庶務事項

(1) 第37回理事会 平成29年1月30日(月)14時～16時00分(於:IC事務所)

出席理事12名(理事総数15名)、出席監事2名(監事総数2名)

審議事項

ア決議事項①IC事務所契約更新に伴う賃借料値上げ承認の件

イ協議事項①2017年度国際フォーラムの開催日程・会場決定について

②2017年度理事会運営の考え方と審議伺いについて

③2017年度予算編成に関し詳細計画の考え方について

ウ報告事項 2件

(2) 第38回理事会 平成29年2月21日(火)14時～16時(於:IC事務所)

出席理事8名(理事総数15名)、出席監事2名(監事総数2名)

審議事項

ア決議事項:①第5期(平成28年1月1日～12月31日)事業報告書ならびに貸借対照表、正味財産増減計算書(公益目的支出計画実施報告書)及び財産目録承認の件(監事からの監査報告を含む)

②第6回定時会員総会の招集の件

(1)招集日 平成29年2月22日(水)

(2)開催日時 平成29年3月12日(日)14時から15時30分まで

(3)開催場所 当協会事務所

(4)議案 I 定款一部変更承認の件

II 第5期(平成28年1月1日～12月31日)事業報告書ならびに貸借対照表、正味財産増減計算書(公益目的支出計画実施報告書)及び財産目録承認の件

III 第6期(平成29年1月1日～12月31日)事業計画書ならびに収支予算書

および正味財産増減計算書(公益目的支出計画書)説明の件

イ協議事項①IC ニュースの考え方ならびに印刷業者選定の件
ウ報告事項・代表理事・業務執行理事の職務執行状況の報告。

他1件

(3) 第6回定時会員総会 平成29年3月12日(日)14時~15時30分(於:IC事務所)

会員総数 145名 議決権を有する出席者総数 104名(本人出席28名 議決権行使書76名)

決議事項

第1号議案 定款一部変更承認の件

第2号議案 第5期(平成28年1月1日~12月31日)事業報告書ならびに貸借対照表、正味財産増減計算書および財産目録承認

(4) 第39回理事会 平成29年4月24日(月)14時~16時(於:IC事務所)

出席理事12名(理事総数15名)、出席監事2名(監事総数2名)

審議事項

ア協議事項①交流会の予算について

②新会員入会について

③2017年Global Assembly(IoFC総会)に日本IC協会からの参加の件

④学校訪問実施計画のプロジェクトチーム編成について

イ報告事項6件

(5) 第40回理事会 平成29年5月15日(月)14時~16時(於:IC事務所)

出席理事11名(理事総数15名)、出席監事1名(監事総数2名)

審議事項

ア決議事項①事務局長の「雇用契約書」第2条「雇用期間」変更の承認を求める件

イ協議事項①会員の外部活動に関する「交通費」の考え方の件

ウ報告事項3件

(6) 第41回理事会 平成29年6月18日(日)7時~8時(於:富士カーム研修室 富士吉田市)

<ICビジョン会議セミナー6/16~6/18期間中の中で開催>

出席理事9名(理事総数15名)、出席監事2名(監事総数2名)

審議事項

ア決議事項①事務所椅子の老朽化への対応について

イ報告事項4件

(7) 第42回理事会 平成29年7月31日(月)14時~16時(於:IC事務所)

出席理事8名(理事総数15名)、出席監事2名(監事総数2名)

審議事項

ア決議事項①事務局長の雇用契約書、雇用期間延長に改めて理事会の承認を得る件

②事務局長の賃金及び事務局員の賃金改定について

③学校訪問実施計画について

イ協議事項①協会の未来に向かう活動と運営について

②加藤理事のメール配信外部へ情報流出の件

ウ報告事項4件

(8) 第43回理事会 平成29年9月20日(水)15時30分~17時30分(於:IC事務所)

出席理事13名(理事総数15名)、出席監事2名(監事総数2名)

審議事項

ア協議事項①2018年役員改選に向けての役員選挙日程案の件

②インドCIB国際会議参加者募集の件

③2018年IC国際フォーラム日程、総会、3月までの理事会日程の件

イ報告事項4件

ウ決議事項①一理事に対する理事会の対応について

(9) 第 44 回理事会(書面決議) 平成 29 年 10 月 16 日(月) 14 時～16 時(於: IC 事務所)

出席理事 7 名(理事総数 15 名)、出席監事 2 名(監事総数 2 名)

審議事項

ア決議事項①2017 年 12 月 27 日～2018 年 1 月 3 日インドで開催の APYC 応援者推薦の件

②学校訪問プロジェクトの件

イ協議事項①2018 年度公益事業計画(案)の件

②International IofC からの要請「今後の自国の IC 協会の方向性について研修会の件」

ウ報告事項 3 件

(10) 第 45 回理事会 平成 29 年 11 月 8 日(月) 14 時～16 時(於: IC 事務所)

出席理事 8 名(理事総数 15 名)、出席監事 2 名(監事総数 2 名)

審議事項

ア協議事項①平成 30 年事業計画書(案)の件

②学校訪問の件

イ報告事項 2 件

(11) 第 46 回理事会 平成 29 年 12 月 14 日(木) 14 時～16 時(於: IC 事務所)

出席理事 11 名(理事総数 15 名)、出席監事 2 名(監事総数 2 名)

審議事項

ア決議事項①新会計事務所との契約の件

②平成 30 年度事業計画書、正味財産増減計算予算書修正版承認の件

イ協議事項①事務局の現況を子細に理事会に報告する必要があること、および今後の事務局体制を協議する必要があること

ウ報告事項・代表理事・業務執行理事の職務執行状況の報告。

他 3 件

(12) 登記事項

なし

(13) 役員に関する事項

なし

(14) 職員に関する事項

平成 29 年 12 月 6 日付けで、事務局員 天澤典子氏/河井和子氏の 2 名が退職。

以上